



小児科心理発達検査

小児科では、専門の心理士が心理発達検査を実施しております。心理発達検査とは、お子様の現在の発達の程度を調べたり人格を評価したりする検査です。平均的な人と比べてお子様の発達がどのあたりなのかということや、検査の結果、支援が必要な場合には、どのような援助を行うと良いのかということもわかります。具体的には、「早産で小さく生まれたけど発達はふつうかな?」「小さいころにひどい痙攣を起こしたので後遺症が心配だ!」「うちの子はちょっと気になるところがあるけど学校に行って大丈夫かな?」「学校の勉強についていけるのかな?」といった不安を持つ方にお気軽に受けていただけます。

現在のお子様の発達状態を検査によって評価すると、どういったことが苦手なのかがはっきりすることがあります。苦手な分野がわかれば対策をとることも可能になり、お子様の自尊心が傷つけられることを防ぎ、自己肯定感を高めることで、より健やかに成長していただけるようになると思います。当科では、新版K式(3か月～成人)やWISC-IV(5歳～16歳)等の発達検査を実施しております。

もし、お子様の発達に何か気になるところがあり、発達検査を希望される場合は、小児科外来へお越しください。診察を行い検査に関する注意点をご理解いただいたうえで段取りをさせていただきます。注意していただきたい点としては、発達検査ですべての発達がわかるわけではないこと、発達検査で自閉スペクトラム症(ASD)や注意欠如多動性障害(ADHD)を診断するものではないこと等があります。なお、当科での検査対象年齢は1歳6か月から中学生までとさせていただきます。

✿ ちょっと気になるお子様の特徴とは? ✿

- 他の子どもの輪から離れてひとり遊びをしている
 - 集団活動で他の子どもからワンテンポ遅れる
 - 冗談が通じない(鵜呑みにしてしまう)
 - 決まった服しか着ない(服の襟のタグがチクチクして我慢できない)
 - ミニカーを一列に整然と並べる
 - 会話がキャッチボールにならず、自分の話を一方的にする
 - 掃除機やドライヤーの音がダメ
 - 自分のルールにこだわる
 - 全く知らない人にでも平気で話しかけていく
 - ことばの遅れ
 - 急な予定変更でパニックになる
- など

上記にあげた行動は、自閉スペクトラム症(ASD)のお子様で認められやすい症状です。スペクトラムとは、虹に代表されるように切れ目なくつながっている状態を指します。よってここまでは正常、ここからが異常といった線引きができません。上記の行動があったとしても、問題なく社会生活をおくることができている場合は心配いりませんが、気になるようであれば小児科外来を受診して、ご相談ください。